図書便り（9月号）

令和6年（2024年）9月25日(水)発行

文責　山瀬

～うどん販売お疲れ様でした～

9 月 20 日（金）に行われた天草高校文化祭でのうどん販売お疲れ様でした。暑い中、みんなで協力してうどんを作り、販売している姿はとても輝いていました。食堂の掃除や機材の準備、リハーサルにも一生懸命取り組んでくれたおかけで、スムーズに販売ができたと思います。うどんも好評だったようです。

文化祭の間の図書室の役割は、みなさんを向かい入れることでした。年に一度ですが、たくさんの人と荷物が図書室に集まります。皆さんは、図書室の変化に気づいてくれたでしょうか。気づかなかった人はぜひとも図書室へ遊びに来て下さい。

またニ学期は行事がたくさんあります。これからも、定時制全員で協力して行事に取り組んでいきましょう。

❀ 図書案内 ❀

今月の図書紹介は新しく入った本です。気になる本がありましたら、定時制図書室まで。

『クスノキの番人』

東野　圭吾（著）

不当な理由で職場を解雇され、腹いせに罪を犯し逮捕された直井玲斗（なおいれいと）。そこに弁護士の岩本が現れ、ある依頼を引き受けるなら釈放すると言われます。その依頼とは「クスノキの番人をしてもらいたい」という内容でした。クスノキを中心に起こる小さな奇跡の物語です。続編の『クスノキの女神』もあります。

『しごとへの道　パン職人・新幹線運転士・研究者』

鈴木　のりたけ(著)

どんな仕事をしているかを教えてくれる本はたくさんあります。この本はどうしてその仕事に就こうと思ったのか、職業人になるまでにどのような経緯でなったのかを教えてくれる本です。三人のしごとへの道のヒストリーが読めて面白い一冊です。

『神田ごくらく町職人ばなし』

坂上曉人(著)

ただひたすらに己の技術を磨いていく江戸時代の職人のお話です。百年先も使える桶を作ろうとする桶職人の女性、自分の打った刀が子どもの命を奪ってしまった刀鍛冶の職人、町の象徴となる土蔵を作り上げた若き左官職人。一つ一つの物語に職人が手仕事にかける思いが伝わる漫画です。

『もうじきたべられるぼく』

はせがわゆうじ(著)

総ページ数は 35 ページ。もうじき食べられてしまう牛のぼく。食べられる前に、一目お母さんに会いたくてお母さんのいる牧場へ旅に出るお話です。短いお話ですが、「命をいただく」ことの大切さに気づかせてくれる絵本です。